

基本習熟コース

〔一般目標〕

個々の歯科医師が患者の立場に立った歯科医療を実践できるようになるために、基本的な歯科診療に必要な臨床能力を身に付ける。

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
(1) 医療面接	/	/	/	/	/
【一般目標】					
患者中心の歯科診療を実施するために、医療面接についての知識、態度及び技能を身に付け、実践する。					
【行動目標】					
① コミュニケーションスキルを実践する。	1) 当科内で行われる研修セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討	20症例	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。	医療面接の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、合計20例以上経験していることが必要。ただし①から⑨までの行動目標ごとに最低2例以上を経験していることが必要。
② 病歴（主訴、現病歴、既往歴及び家族歴）聴取を的確に行う。	1) 当科内で行われる研修セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討				
③ 病歴を正確に記録する。	1) 当科内で行われる研修セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討				
④ 患者の心理・社会的背景に配慮する。	1) 当科内で行われる研修セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討				
⑤ 患者・家族に必要な情報を十分に提供する	1) 当科内で行われる研修セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討				
⑥ 患者の自己決定を尊重する。 (インフォームドコンセントの構築)	1) 当科内で行われる研修セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討				
⑦ 患者のプライバシーを守る。	1) 当科内で行われる研修セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討				
⑧ 患者の心身におけるQOL (Quality Of Life) に配慮する。	1) 当科内で行われる研修セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討				
⑨ 患者教育と治療への動機付けを行う。	1) 当科内で行われる研修セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討				

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
(2) 総合診療計画	/	/			
【一般目標】					
効果的で効率の良い歯科診療を行うために、総合治療計画の立案に必要な能力を身に付ける。					
【行動目標】					
① 適切で十分な医療情報を収集する。	1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表	20症例	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。	診察や検査の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、合計20例以上経験していることが必要。ただし①から⑦までの行動目標ごとに最低3例以上を経験していることが必要。
② 基本的な診察・検査を実践する。	1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察(歯周検査、う蝕検査、歯髄検査、エックス線検査、MRI検査、CT検査、核医学検査、胸部単純エックス線写真の読影、血液検査、止血機能検査、循環機能検査、呼吸機能検査など) 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表				
③ 基本的な診察・検査の所見を判断する。	1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表				
④ 得られた情報から診断する。	1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 外来や病棟で診察 4) 指導歯科医との検討 5) 症例発表				
⑤ 適切と思われる治療法及び別の選択肢を提示する。	1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 治療計画の立案 4) 指導歯科医との検討 5) 外来や病棟で診察 6) 症例発表				
⑥ 十分な説明による患者の自己決定を確認する。	1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 治療計画の立案 4) 指導歯科医との検討 5) 外来や病棟で診察 6) 症例発表				
⑦ 一口腔単位の治療計画を作成する。	1) 当科内で行われる研修医セミナーへの参加 2) 見学実習 3) 治療計画の立案 4) 指導歯科医との検討 5) 外来や病棟で診察 6) 症例発表				

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
(3) 予防・治療基本技術	/	/	/	/	/
【一般目標】					
歯科疾患と機能障害を予防・治療・管理するために、必要な基本的技術を身に付ける。					
【行動目標】					
① 基本的な予防法の手技を実施する。	1) う蝕予防と管理(リスク判定、ブラッシング指導、フッ素塗付、予防填塞、食生活指導) 2) 歯周病予防と管理(リスク判定、プラークコントロール、予防的スクレーピング、メインテナンス)	20症例	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。 また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)	目標達成の基準として、合計20例以上経験していることが必要。ただし①から④までの行動目標ごとに最低4例以上を経験していることが必要。
② 基本的な治療法の手技を実施する。	1) 充填物や補綴物の除去 2) 感染歯質の除去 3) 歯冠修復 4) 根管治療 5) 義歯調整など				
③ 医療記録を適切に作成する。	診療録、処方箋、歯科技工指示書、医療情報提供書、診断書、保険レセプトなどを適切に作成				
④ 医療記録を適切に管理する。	診療録、処方箋、歯科技工指示書、医療情報提供書、診断書、保険レセプトなどを適切に管理				
(4) 応急処置	/	/	/	/	/
【一般目標】					
一般的な歯科疾患に対処するために、応急処置を要する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。					
【行動目標】					
① 疼痛に対する基本的な治療を実践する。	1) 局所麻酔 2) 知覚過敏処置 3) 歯髄処置(覆髄法) 4) 排膿処置 5) 内服、注射処方箋の作成 など	3症例	上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。 また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。	治療の流れを連続して経験した場合は1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。) 例①：問診→縫合→消毒・経過 例②：問診→2次カリエスの除去・再合着→経過	目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。ただし①から③までの行動目標ごとに最低1例以上を経験していることが必要。
② 歯、口腔及び顎顔面の外傷に対する基本的な治療を実践する。	1) 止血処置 2) 縫合法 3) 抜糸 4) 歯の脱臼処置 など				
③ 修復物、補綴装置等の脱離と破損及び不適合に対する適切な処置を実践する。	1) 補綴物の除去 2) 2次カリエスの除去 3) 暫間充填 4) 再合着 など				

到達目標	研修内容	必要な症例数	研修歯科医の指導体制	症例数の数え方	修了判定の評価基準
(5) 高頻度治療	<p>【一般目標】</p> <p>一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。</p> <p>【行動目標】</p> <p>① う蝕の基本的な治療を実践する。</p> <p>② 歯髄疾患の基本的な治療を実践する。</p> <p>③ 歯周疾患の基本的な治療を実践する。</p> <p>④ 抜歯の基本的な処置を実践する。</p> <p>⑤ 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。</p>	30症例	<p>上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。</p>	<p>治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)</p> <p>例①： 問診→う蝕除去→支台歯形成→印象採得→装着</p> <p>例②： 歯周病検査→スケーリング・ルートブレーニング→経過</p>	<p>目標達成の基準として、合計30例以上経験していることが必要。ただし①から⑤までの行動目標ごとに最低3例以上を経験していることが必要。</p>
【一般目標】					
一般的な歯科疾患に対処するために、高頻度に遭遇する症例に対して、必要な臨床能力を身に付ける。					
【行動目標】					
① う蝕の基本的な治療を実践する。					
② 歯髄疾患の基本的な治療を実践する。					
③ 歯周疾患の基本的な治療を実践する。	<p>1) う蝕病巣の除去と修復処置</p> <p>2) 窩洞形成、支台歯形成</p> <p>3) 印象採得、咬合採得</p> <p>4) 補綴物の装着など</p>				
④ 抜歯の基本的な処置を実践する。	<p>1) 知覚過敏処置</p> <p>2) 歯髄処置(覆髄法、断髄法、抜髄法)</p> <p>3) 感染根管処置</p> <p>4) 支台築造 など</p>				
⑤ 咬合・咀嚼障害の基本的な治療を実践する。	<p>1) 歯周基本治療</p> <p>2) 歯周外科処置</p> <p>3) 固定</p> <p>4) 歯周病のメインテナンス治療</p>				
① 保険診療を実践する。	<p>1) 単純抜歯</p> <p>2) 智歯抜歯</p>				
② チーム医療を実践する。	<p>1) 歯冠修復治療</p> <p>2) 部分床義歯治療</p> <p>3) 全部床義歯治療</p>				
③ 地域医療に参画する。	研修協力施設での診療補助				
(6) 医療管理・地域医療	<p>【一般目標】</p> <p>歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身に付ける。</p> <p>【行動目標】</p> <p>① 保険診療を実践する。</p> <p>② チーム医療を実践する。</p> <p>③ 地域医療に参画する。</p>	5症例	<p>上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。また、指導歯科医は、研修歯科医の進捗状況を把握し、不足している症例がある場合は、指導歯科医等の患者の症例を配当する。</p>	<p>治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。(すべての流れを経験することが望ましい。)</p>	<p>目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。ただし①から③までの行動目標ごとに最低1例以上を経験していることが必要。</p>
【一般目標】					
歯科医師の社会的役割を果たすため、必要となる医療管理・地域医療に関する能力を身に付ける。					
【行動目標】					
① 保険診療を実践する。	<p>1) 保険診療の体系や原則を当科内で行われる研修医セミナーで学習</p> <p>2) 保険診療の規定に沿った治療を行い、診療記録に記載</p> <p>3) 歯科診療保険請求のチェック</p>				
② チーム医療を実践する。	<p>1) 専門医やかかりつけ医へのコンサルテーション</p> <p>2) 他科、他施設への患者の医療情報提供</p> <p>3) 医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、歯科技工士、放射線技師などとのチーム医療</p> <p>4) 小児、高齢者、リスク患者、要介護者などの治療における保護者、介護者、付添いの家族、看護婦などとのチーム医療</p> <p>5) 他科との共診治療(全身疾患を有する患者)</p>				
③ 地域医療に参画する。	研修協力施設での診療補助				

到達目標達成のため、当施設ではその他以下の研修を行う。

◇採用時：

- * 医科研修医と合同のガイダンス（医療倫理、医療情報システム、リスクマネージメント、院内感染対策、インフォームドコンセント、処方箋の書き方、臨床試験などに関する講義）

◇外来研修：

- * 診療用器具の準備、整備
- * 上級医の診療補助（基本的歯科診療のほか難拔牙、歯根端切除術、嚢胞摘出、インプラント、歯周外科、顎補綴、矯正治療、精神鎮静法など）
- * 感染症、全身疾患を有する患者の診療補助
- * 初診患者の病歴聴取

- * カルテの記載、処方箋の作成、医療情報の管理、伝達

- * 基本的歯科診療（う蝕、歯髓疾患、歯周疾患の治療、欠損部補綴、歯科技工、拔牙、外傷（歯、歯槽骨、口腔軟組織）、修復物脱離に対する処置など）
- * 歯科診療保険請求のチェック
- * 研修医臨床カンファレンス（毎月2回）
（各回テーマ別のプレゼンテーション、担当症例の供覧、治療法に関する知識向上など）
- * 保存・補綴・矯正・口腔外科臨床に関する講習受講と基礎実習
- * カンファレンス（症例検討）への参加（カンファレンス資料の準備、管理を含む）

◇病棟研修：

- * 入院時の病歴聴取（医療面接）
- * 入院患者の創傷処置
- * 末梢静脈穿刺と静脈ライン確保、動脈穿刺技術の習得
- * 皮内、皮下、筋肉、末梢静脈、輸血等注射技術の習得
- * 内服、注射処方箋の作成
- * 各種検査、処置のオーダー
- * 臨床検査値の解釈とそれに対する対処法の習得
- * 術前説明への同席、記録
- * 診断書、証明書、依頼書等の作成
- * 手術室での手術補助
- * 上級医の当直業務補助（月1回程度）
- * 基本的な外科的処置
- * カンファレンス（症例検討）への参加（カンファレンス資料の準備、管理を含む）

◇外来研修、病棟研修共通：

- * 当科内で行われる研修医セミナー（年18回、各回テーマ別）への参加
- * 病院全体で行われるリスクマネージメント研修、院内感染対策研修などへの参加

◇研修協力施設：

- * 病診連携の実際、歯科保健衛生活動など